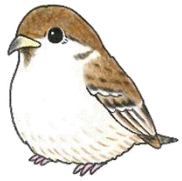
公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

探鳥会スタッフ通信 2018年7月号



「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

◆探鳥会訪問記・・・・・・・・・・・・・・・1
・日本野鳥の会もりおかによる視覚障がい者向け探鳥会（もりおか）
・バードリスニング～視覚障がい者のための探鳥会～（鳥取県支部）
・多磨霊園探鳥会（東京）
◆探鳥会保険集計結果・・・・・・・・・・・8
（2018年5月分）
◆普及室からのお知らせ・・・・・・・・・・10
・内容確認のお願い（財団HP・探鳥会情報）
・2018年度「初心者向けバードウォッチング」実施概要の提出について
◆今月の購読者数・・・・・・・・・・・・・11
◆探鳥会スタッフ通信の無料配信について・12
◆編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・12

◆探鳥会訪問記

日本野鳥の会もりおかによる視覚障がい者向け探鳥会（もりおか）

日本野鳥の会もりおか（以下もりおか）では、視覚障がい者や聴覚障がい者を対象とした探鳥会を実施しています。今回開催の情報をいただき、参加して参りました。

※過去の探鳥会の様子は、以下の探鳥会スタッフ通信をご覧ください。
2016年8月号5ページ「視覚障がい者のための探鳥会を行いました！」
https://www.wbsj.org/info/shibu/tancho/staff201608.pdf
2017年11月号1ページ「森に音をひろいに行こう（もりおか）」
https://www.wbsj.org/info/shibu/tancho/staff201711.pdf

【日程】2018年6月10日（日） 9時30分～12時00分
【場所】高松公園（岩手県盛岡市）
【天候】くもり
【参加者】19名（介助スタッフ含む）
【リーダー】9名

■開催の経緯

盛岡市に拠点を置くNPO法人日本メイプル協会（以下、メイプル協会）は、森林の保全と活用に取り組む団体で、視覚障がい者向けに野外活動の場を提供しています。それは「森の探検隊」という活動で、毎月第2日曜日に、森の散策、石窯ピザ作り、スノーシューハイクなど、森の中でのさまざまな活動を行っています。

今回の探鳥会のはじまりは、メイプル協会が、活動にバードウォッチングを取り入れたいと考え、もりおかに協力を依頼したことでした。森の探検隊でのバードウォッチングは、毎年6月に行われていて、今年で3回目となります。

■探鳥会の概要

会場は、盛岡市にある高松公園です。ここは、もりおかの定例探鳥会のフィールドで、大きな池、ヨシ原、森林などを巡るコースがあります。当日は朝7時から支部の定例探鳥会が開催されていて、リーダーのみなさんは、定例探鳥会

の終了後、この探鳥会を実施されていました。
　カッコウ、ホトトギス、コムクドリ、オオヨシキリ、キビタキ、ヤブサメなど、多様な種類の声が終始聞こえてきて、誰もが鳴き声を堪能できる探鳥会でした。６月は、晴れるとセミの大合唱になる時期とのことでしたが、当日はくもり空で、鳥の声を聞くにはよい状況が整っていました。

■探鳥会の様子

　参加者が集合すると、はじめにバードカービングとキジの剥製を用意し、参加者の前へ。リーダーが促すと、参加者のみなさんは思い思いにカービングや剥製を触り、興味深そうに、鳥の形や大きさを実感していました。
　鳥の大きさや形を伝えるために、もりおかのリーダーのみなさんは、いろいろな工夫をしてきました。１回目にバードカービングを使ったところ「鳥が冷たい」という意見があり、２回目は仮剥製を用意しました。すると、参加者から「鳥は筒のような長細い形をしていると思った」という意見がありました。そこで今年はキジの剥製とカービングを使うことに。今回は、

▲バードカービングや鳥の剥製を使って、鳥の形や感触を伝えました

▲剥製のキジに触れる参加者のみなさん

成功したようです。
　次に、
「今日、聞こえる鳥の声を予習しましょう。」
とリーダーから声をかけ、鳴き声タッチペンを使って、鳥の声を聞きました。
　その後、広場に移動し、はじめのあいさつがありました。メイプル協会・事務局長の川又さんから、
「鳥の声だけでなく、リーダーのみなさんの声も聴きたいです。」
と促され、みなで自己紹介をし、和やかな雰囲気で探鳥会がスタートしました。
　観察中は、介助スタッフ・弱視の方と全盲の方が２人ペアになり、そこにリーダーが一人ずつ付き添って移動しました。

▲全盲の方と介助者が二人一組で行動。一組に一人ずつリーダーが付き添いました

　通常の探鳥会との違いのひとつは、リーダーや介助スタッフが、鳥の解説のほかに状況説明もしていたことです。環境が変わると、
「道の右側はネギ畑、左は森です。」
などと、解説をしていました。また、メイプル協会の方から、はじめにリーダーに対して、
「声が聞こえない鳥はいないと思ってください。」
とのアドバイスがあり、目の前をキジが通り過ぎても特にふれず、声が聞こえる鳥だけを紹介していました。
　参加者のみなさんは非常に音に敏感で、かすかな音でも
「これ、何の声？」
「ちょっと鳴き方が違うけど、これはヒナの声ですか？」
など些細な違いにも興味を示していました。
　また、途中、クワの実を味わったり、葉っぱを触ったり、花のにおいをかいだりなど五感を活用した観察もとても好評でした。

最後に、はじめの広場に戻り、聞こえた鳥の声の確認をしました。鳴き声タッチペンで、この日によく聞こえた鳥の声を再生し、
「ああ、この声、聞きましたね。」
などと参加者から声が上がっていました。川又さんから、
「今回で３回目となり、リーダーのみなさんがすっかり案内に慣れてらっしゃることが分かりました。」
とのお話がありました。

■参加者の声

初参加の方：周りにこんなに鳥がいることにあらためて気づきました。これからはもっと注意したい。また参加したいです。

リピーターの方：この探鳥会に来るようになってから、森の探検隊の活動で森に行ったとき、鳥の声が気になるようになりました。

■まとめ

目が不自由な方に対して、どんな探鳥会をするのか、ほぼイメージがない状況で参加しました。しかし、実際に参加してみて、良い意味で「特別な事がない」探鳥会と思いました。

メイプル協会は「視覚障がい者との野外活動」、もりおかは「野鳥の専門知識や探鳥会の運営」という、お互いの専門分野を生かし、この探鳥会が行われています。それぞれが普段行っていることを生かしているので、関わっているみなさんが無理なく、自然に行動しているように見えました。

支部だけで障がい者向け探鳥会の企画運営をすることは難しいかもしれませんが、障がい者の団体と一緒に行う事で、無理なく展開できることを知りました。

リーダーからは、「視覚障がい者の方は、音や光、気配などで周囲の環境を捉える能力が優れている。光の加減の変化で環境が変わったことに気づいていて、驚きました。」「誰もが、年を取れば、音が聞き取りにくくなったり、歩きにくくなったりする。それを思えば、みんなが一緒に楽しめる探鳥会を作るのは自然なことだと思う。」などの声が聞かれ、リーダーにとっても、新しい発見が多い活動であるとの声が聞かれました。

▲リーダーの案内で、木の葉や実を触ったり、香りをかいだり

もりおかには、視覚障がい者団体だけではなく、聴覚障がい者団体からも依頼があり、探鳥会を行っています。このように、外部からの協力依頼があると、幹事が集まって相談し、受けるかどうかを皆の意見で決めていくそうです。みなで関わる合意形成のプロセスが、活動の雰囲気にとても表れていて、活動の可能性を広げているのではと、感じました。

▲最初と最後に、鳴き声タッチペンで鳴き声を予習復習。タッチペンは大活躍でした

（普及室／江面康子）

バードリスニング～視覚障がい者のための探鳥会～（鳥取県支部）

NPO 法人日本野鳥の会鳥取県支部（以下鳥取県支部）で視覚障がい者のための探鳥会が行われるというので、取材のためお邪魔してきました。体の不自由な方のための探鳥会は、これまでも京都支部、もりおかの事例をこの紙面でご紹介してきましたが、今回伺った鳥取県支部はその中で最も取り組みの歴史が長く、初めて開催したのは今から 16 年前の 2002 年です。第 1 回目を大山（だいせん）で開催した後、鳥取市に会場を移し開催してきましたが、今回 12 回目を再び大山で開催することになりました。

【日程】2018 年 6 月 10 日（日）　10 時 00 分～11 時 30 分
【場所】鳥取県大山下山キャンプ場（鳥取県西伯郡大山町）
【天気】曇りときどき雨
【主催】（公社）鳥取県視覚障がい者福祉協会　西部支部
【共催】NPO 法人日本野鳥の会鳥取県支部
【協力】鳥取県視覚障がい者ボランティア「わらび会」、大山自然歴史館、自然公園財団鳥取支部
【参加者】25 名（視覚障がい者 9 名、サポーター16 名）
【リーダー・スタッフ】11 名

■障がい者団体との連携

鳥取県支部が視覚障がい者向け探鳥会を始めたきっかけは、16 年前にさかのぼります。幹事の一人が鳥取県視覚障がい者ボランティア「わらび会」の方と知り合い、声をかけたことから始まりました。それ以来、支部では「わらび会」と一緒にこの行事の企画運営にあたってきました。

京都ともりおかの場合もそうでしたが、鳥取でもやはり障がい者福祉団体との連携がこの種の探鳥会の成功の秘訣でした。体の不自由な方を対象とした探鳥会には、介添え者の手配や現地までの交通、その他障がい者を対象とした場合のリスク管理など、普段とは異なる準備が必要となります。それらの準備までを支部で担うとすると、それだけで大きな負担となります。その点、福祉団体と連携すれば、介添え者や交通の手配などはすべてお任せして、支部は野鳥や自然の解説だけに集中することができます。

■探鳥会の様子

冒頭に、主催者の鳥取県視覚障がい者福祉協会の西部支部長と共催団体である鳥取県支部の土居支部長のあいさつがありました。そして全員で目を閉じて森の中の音に耳を澄まし、周りの景色に自らを同化させてからスタートしました。参加者を二班に分けて、下山キャンプ場内の木道の周回コースを時計回りと反時計回りに歩きました。

歩き始めてすぐに参加者の一人が
「1 時間も歩くのは不安だ。」
とおっしゃっていました。聞けば普段はあまり外へ出ることがないそうです。歩きなれない森の中を 1 時間歩くことに不安を感じたのでしょう。しかし、その方も歩いているうちに次第に慣れてきて、心配していた木道の段差や階段なども白杖と介添え者の介助を頼りに楽しそうに歩かれていました。途中で雨がぱらつくこともありましたが、雨の音や感触すらも逆に楽しんでいらっしゃったのが印象的でした。不安もあるけど雨の中でも歩きたいのだそうです。

道のわきに咲いているアジサイの花を丹念に手で触り、時間をかけて花の形や感触を楽しんだり、キビタキの声を聞いたり、ササ笛を吹いて鳴らしたり、一つ一つの観察を丁寧に楽しんでいらっしゃいました。

最後の合流地点では、20 年ほど前に当会から出版した視覚障がい者のための図鑑「さわる図鑑」、鳴き声タッチペン、シジュウカラとメジロの実物大の模型など、触ることができる教材を使いながらその日一日のまとめを行いました。

▲アジサイの花の感触を楽しむ様子

▲ササ笛に挑戦

▲シジュウカラの実物大の模型で、大きさを確かめます

■視覚障がい者の方の自然認識

健常者はあたりまえのように視覚に頼って周りの環境を認識しています。では視覚障がい者の皆さんはどのように自然を認識していらっしゃるのでしょうか？

印象的だったのは、林の中でずっとさえずっているキビタキの声を聞きながら「声が震えている！どんなふうに鳴いているんだろう。虫みたいに羽根を震わせているのかな？」とおっしゃっていたことでした。きっとキビタキの震えるような声質から姿を想像して映像化されていたのでしょう。

またリーダーの方のキビタキの解説に対して「どんな色の鳥なんですか？」という質問がありました。視覚障がい者だから「見る」ことには関心がないのだろうと勝手に思っていましたが、見ることができない鳥の色や姿かたちに強い関心を示されていました。もしかしたらこの方は、途中で視覚を失った方なのかもしれません。生まれつき障害のある方はまた違った感覚をお持ちなのかもしれませんが、今回はそのあたりのことはお聞きすることができませんでした。

その他、鳥取県支部の土居支部長や津森理事からお聞きした視覚障がい者向け探鳥会の特徴やコツをお伝えしておきます。

「見せなくてもよい」
土居支部長の言葉で印象的だったことは、通常の観察会と違って「見せなくてもよい」ので、通常の観察会よりも楽だともいえる、という言葉でした。なるほど。

「一緒に楽しむという姿勢」
教えるのではなく、一緒に楽しむという姿勢で大丈夫。みなさん、知識を求めて来ているというよりは五感を使うことを楽しんでいらっしゃいました。

「障がい者であることを意識しない」
相手が障がい者であることを意識しない方がよい。階段や段差も必要以上に心配しなくてもよい。ただ、「あそこに」「そっち」といった指示語は NG。

「列が長くなる」
歩行に慣れている方とそうでない方、関心の強い方とそうでもない方で歩くペースに差ができやすい。スタッフもある程度列の中に散らばって参加者のフォローをする必要がある。

■関心の高さ

今回の観察会で一番強く感じたことは、とにかく歩く意欲、観察する意欲が高いということです。普段は外出すらままならず室内で過ごすことが多い方々なので、自然の中での体験に飢えていらっしゃるのでしょう。全身の感覚で自然を楽しんでいるようでした。

また、健常者とは異なる感覚で自然を認識していらっしゃるので、私たちにとってその視点ははっとさせられることも多く、気づきの多い機会となりました。

普及室では、体の不自由な方のための探鳥会の情報を集めています。うちの支部でもやっている、まだやったことがないけど関心があるという方がいらっしゃいましたら普及室までご連絡ください。

（普及室／箱田敦只）

多磨霊園探鳥会（東京）

私は、普段は姫路市自然観察の森でレンジャーをしております。新人研修の一環として、日本野鳥の会東京の探鳥会に参加させていただきましたので、その様子をご報告いたします。

【日程】2018 年７月8日（日）８時 00分～11 時 00 分
【場所】多磨霊園（東京都府中市、小金井市）
【天候】晴れ
【参加者】40 名
【リーダー】６名

■探鳥会概要

日本野鳥の会東京では、月例探鳥会として、毎月 10 か所のフィールドで探鳥会を開催しています。そのうちの１つ、多磨霊園探鳥会は毎月第２日曜日（４月は第１日曜日）に開催されています。

霊園特有の、静かで明るく見通しの良い環境で、コゲラやエナガ、シジュウカラなどの１年を通して見られる鳥のほか、様々な山野の野鳥を観察することができます。なお、この探鳥会では、確認できた野鳥の個体数もカウントしています。

■探鳥会の様子

当日は天気も良く、集合時間の１５分前には既にほとんどの参加者がリーダーのもとに集まっていました。集合場所は多磨霊園正門前広場です。

参加者はまず、受付用紙を記入し、１８歳未満は参加費 200 円を払って待機します。探鳥会スタートまでの時間、参加者とリーダーは、鳥談義や世間話に花を咲かせているようでした。

午前８時、メインのリーダーが参加者に向けて開始の挨拶とリーダー全員の紹介をします。中には、普段、東京港野鳥公園で探鳥会のリーダーをされている方もいらっしゃいました。

続いて多磨霊園についてのお話、霊園内を歩く際の注意点、今日歩くルートと予定などの説明がありました。この間にも、霊園の奥の方からは早速カッコウのさえずりが聴こえ、期待が高まります。

リーダー間でそれぞれ歩く位置を相談し、より鳥を見つけるのが上手いリーダーを先頭に進むこととなりました。

今回はバードウォッチング初心者の方や探鳥会が初めての方も２～３人参加されていたため、初心者担当のリーダーから、まずは双眼鏡の使い方についてのレクチャーを行い、それ以外の参加者は先に出発しました。

すると間もなく、リーダーが、枯れ木のてっぺんにツミを発見し、皆さん大喜びです。

▲枯れ木にとまるツミ

しばらく観察し、ツミは飛び立っていきました。そして、今度は別の木にムクドリがとまりました。なんだかいつもより大きく見えて、参加者の１人と一緒に
「ツミかと思った！」
と笑い、楽しい雰囲気で探鳥が始まりました。ここで初心者グループも追いつき、さらにコースを進んで行きます。

途中、先頭組はペース合わせのため、休憩や水分補給も兼ねてその場で少し留まる時間が何度かありましたが、その間も、皆さん鳥を探す目と耳は健在です。リーダーや常連の方は、オオタカを探しているとのことでした。

比較的ゆっくりとそれぞれのペースで進めるため、無理なく自由に楽しめる探鳥会だと思いました。

しばらくすると、すぐ近くでオナガの声が聴こえてきました。姿がよく見える位置を教えていただき、双眼鏡をのぞくと綺麗な水色の羽が見えました。よく見ると、どうやら若鳥もいる群れのようです。

関東では普通に見られる野鳥ですが、バー

▲オナガの声のする方を探す参加者

ドウォッチング初心者にとっても、関西出身の私にとっても、嬉しい収穫になりました。

また別の場所で、シジュウカラの群れの中にエナガとコゲラが混じっているポイントを発見しました。動きが素早く、双眼鏡で捉えるのは難しいですが、可愛らしい小鳥たちは女性の参加者に人気でした。

ここまで霊園内の通路を歩いてきましたが、探鳥会の終盤は少し林の道にも入ります。一気に森の雰囲気に包まれ、緑が広がりました。ここでは、いつも小さな水場に、シジュウカラやコジュケイが来るそうです。

残念ながら今回は見られませんでしたが、後からコジュケイのさえずりが響いていました。

林を抜け、最後は全体の鳥合わせです。今回確認された野鳥は、１５種でした。そして、今後の探鳥会やイベントの案内をして終了となりました。

■参加者の声

ご夫婦で参加の女性：夫が支部に入会していたのをきっかけに、一緒に探鳥会に参加するようになりました。

１人で参加の男性：ワカケホンセイインコに興味をもち、バードウォッチングを始めました。他の探鳥会にも出かけています。

常連の男性：過去に、ここで自分が見た珍しい鳥はサンコウチョウです。飛んでいる姿を見られて嬉しかったです。

■まとめ

６名のリーダーが、先頭でいち早く鳥を発見する人、初心者に向けて分かりやすく解説する人、鳥に限らず出会った生物の豆知識をおもしろく話す人など、役割分担をして進行していました。複数のリーダーがいるからこその、楽しい雰囲気と安心感というのも感じられたと思います。

また、常連の方やベテランのバードウォッチャーも、他の参加者に野鳥のことをレクチャーしたり、お目当ての珍鳥を探したりと、人との交流も含めて楽しまれている様子でした。

霊園特有の静かで落ち着いた雰囲気の中で、ゆったりと探鳥ができる、初心者も常連の方も一緒に楽しめる探鳥会だと思いました。

今後も、どんな鳥や人との出会いがあるのか楽しみです。

（施設運営支援室／植阪架愛）

◆探鳥会保険集計結果（2018 年５月分）

５月は 70 支部からご報告をいただき、計 333 回の探鳥会が開催され、のべ 8,021 人が参加されました。

表 1. ５月の探鳥会保険集計結果（2018 年６月 15 日現在）

支部	開催回数（回）	参加者数		スタッフ数（人）	合計人数（人）
		会員（人）	非会員（人）		
オホーツク支部	4	53	14	4	101
根室支部	−	−	−	−	−
釧路支部	2	12	41	8	71
十勝支部	−	−	−	−	−
旭川支部	5	82	1	5	88
滝川支部	2	27	11	3	41
道北支部	0	0	0	0	0
江別支部	−	−	−	−	−
札幌支部	5	78	49	18	145
小樽支部	3	11	13	4	28
苫小牧支部	1	7	−	2	9
室蘭支部	2	6	6	2	14
函館支部	−	−	−	−	−
道南桧山	3	22	21	7	50
青森県支部	−	−	−	−	−
弘前支部	8	88	20	8	116
秋田県支部	4	56	7	5	68
山形県支部	7	64	21	11	96
宮古支部	−	−	−	−	−
もりおか	3	75	78	14	167
北上支部	3	33	5	6	44
宮城県支部	4	69	40	8	117
ふくしま	2	48	20	7	75
郡山支部	3	33	14	12	59
二本松	−	−	−	−	−
白河支部	3	1	−	10	11
会津支部	1	8	3	2	13
奥会津連合	−	−	−	−	−
いわき支部	3	46	15	3	64
福島県相双支部	−	−	−	−	−
南相馬	−	−	−	−	−
茨城県	12	75	33	18	126
栃木県支部	17	218	118	57	393
群馬	7	69	71	25	165
吾妻	2	43	1	5	49
埼玉	9	203	87	53	343
千葉県	7	80	46	36	162
東京	15	537	33	72	642
奥多摩支部	10	144	49	33	226
神奈川支部	11	179	60	33	272
新潟県	−	−	−	−	−
佐渡支部	−	−	−	−	−

富山	3	65	35	7	107
石川	3	25	8	7	40
福井県	3	22	5	4	31
長野支部	5	78	11	10	99
軽井沢支部	2	21	7	2	30
諏訪支部	1	7	4	2	13
木曽支部	2	9	18	3	30
伊那谷支部	3	12	62	6	80
甲府支部	2	50	12	4	66
富士山麓支部	2	13	8	4	25
東富士	-	-	-	-	-
沼津支部	2	21	10	4	35
南富士支部	3	80	9	5	94
南伊豆	1	3	2	2	7
静岡支部	4	38	9	9	56
遠江	3	65	34	13	112
愛知県支部	16	206	159	43	408
岐阜	-	-	-	-	-
三重	6	40	30	11	81
奈良支部	5	124	26	10	160
和歌山県支部	1	3	20	4	27
滋賀	5	74	58	10	142
京都支部	10	188	74	27	289
大阪支部	20	429	182	106	717
ひょうご	5	86	48	16	150
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	2	16	30	2	48
島根県支部	1	1	1	1	3
岡山県支部	5	119	69	16	204
広島県支部	5	66	27	7	100
山口県支部	-	-	-	-	-
香川県支部	3	69	22	4	95
徳島県支部	6	85	19	6	110
高知支部	-	-	-	-	-
愛媛	5	81	24	9	114
北九州支部	3	39	11	3	53
福岡支部	7	93	70	15	178
筑豊支部	8	98	4	8	110
筑後支部	5	21	14	15	50
佐賀県支部	3	50	8	3	61
長崎県支部	-	-	-	-	-
熊本県支部	4	42	10	5	57
大分県支部	3	28	30	4	62
宮崎県支部	4	44	38	4	86
鹿児島	4	71	52	13	136
やんばる支部	-	-	-	-	-
石垣島支部	-	-	-	-	-
西表支部	-	-	-	-	-
全国	333	4949	2137	895	8021

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

◆普及室からのお知らせ

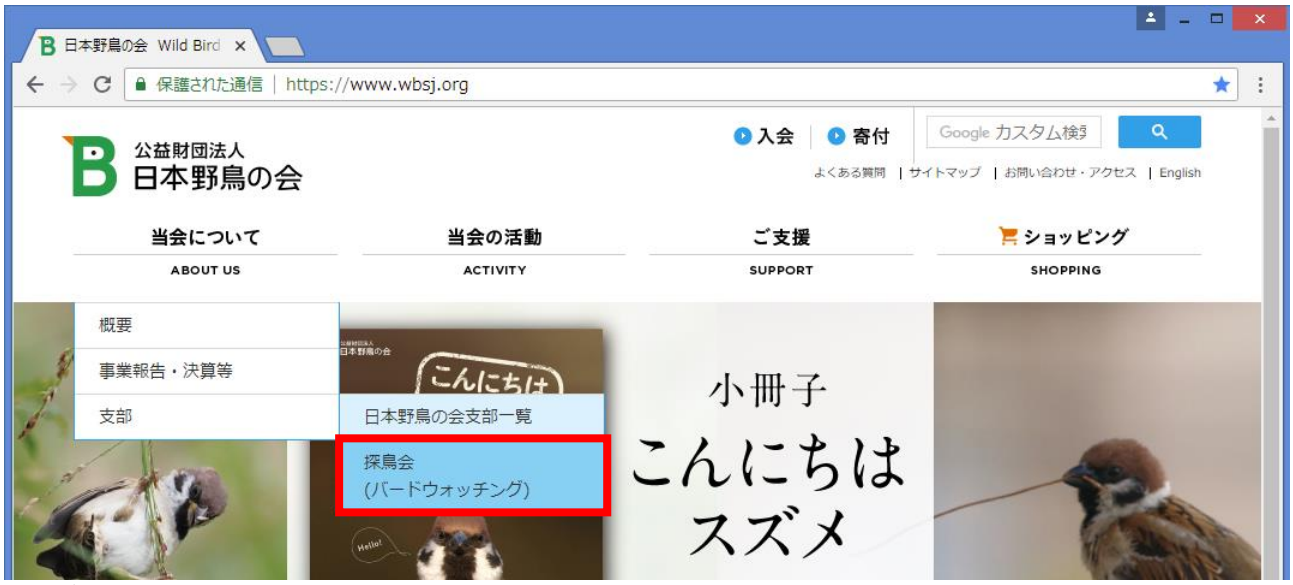
■内容確認のお願い（財団 HP・探鳥会情報）■

財団ホームページには、支部の定例探鳥会の情報を掲載しているページがあります。お手数ですが、右の URL の内容が、現在各支部で開催されている定例探鳥会の内容として、間違いがないかご確認をお願いいたします。過去に、財団ホームページの内容が更新されていないために、参加者が別の場所へ集合してしまったケースがございました。

また、掲載の追加をご希望する探鳥会がありましたら、探鳥会情報をご記入いただくためのフォーマットをお送りしますので、ご一報ください。

【財団 HP・支部主催の探鳥会情報ページ】
http://www.wbsj.org/about-us/group/tanchokai/

【HP 掲載内容の変更・追加に関する連絡先】
普及室　普及教育グループ
tancho-staff@wbsj.org
〒141-0031
東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635



▲探鳥会情報は、財団 HP の上図の赤枠をクリックすると表示されます

■2018 年度「初心者向けバードウォッチング」実施概要の提出について■

2018 年度「初心者向けバードウォッチング」の秋期（10 月～12 月）開催分の実施概要を募集しております。

６月２９日付で支部事務局あてにご送付しました資料をご覧いただき、秋季に「初心者向けバードウォッチング」を開催される支部のみなさまは、8月 15 日（水）までに実施概要をお送りください。

◆今月の購読者数

探鳥会スタッフ通信７月号の電子メール版の購読者数は、先月より１名減って838名です。各支部の購読者数は、「財団からの配信者数」と「支部からの転送による配信者数」の合計です。

表２．探鳥会スタッフ通信７月号電子メール版の購読者数（2018年７月９日現在）

支部	購読者数	支部	購読者数
オホーツク支部	6	長野支部	1
根室支部	0	軽井沢支部	1
釧路支部	2	諏訪	7
十勝支部	1	木曽支部	1
旭川支部	3	伊那谷支部	1
滝川支部	1	甲府支部	4
道北支部	1	富士山麓支部	0
江別支部	0	東富士	0
札幌支部	5	沼津支部	3
小樽支部	3	南富士支部	3
苫小牧支部	2	南伊豆	2
室蘭支部	5	静岡支部	2
函館支部	0	遠江	9
道南桧山	1	愛知県支部	44
青森県支部	1	岐阜	5
弘前支部	5	三重	19
秋田県支部	4	奈良支部	3
山形県支部	4	和歌山県支部	5
宮古支部	1	滋賀	20
もりおか	4	京都支部	30
北上支部	2	大阪支部	26
宮城県支部	39	ひょうご	16
ふくしま	4	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	10
郡山支部	1	島根県支部	13
二本松	1	岡山県支部	28
白河支部	2	広島県支部	9
会津支部	2	山口県支部	16
奥会津連合	0	香川県支部	6
いわき支部	1	徳島県支部	6
福島県相双支部	0	高知支部	1
南相馬	0	愛媛	15
茨城県	22	北九州	11
栃木県支部	59	福岡支部	12
群馬	24	筑豊支部	21
吾妻	1	筑後支部	5
埼玉	38	佐賀県支部	5
千葉県	21	長崎県支部	1
東京	67	熊本県支部	14
奥多摩支部	48	大分県支部	4
神奈川支部	25	宮崎県支部	4
新潟県	2	鹿児島	3
佐渡支部	1	やんばる支部	0
富山	2	石垣島支部	1
石川	29	西表支部	1
福井県	10	合計	838

（普及室）

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の無料配信について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも受信できます。（無料です）

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

★編集後記

西日本の豪雨被害のニュースが連日報じられ、東京の私たちは気が気ではありません。みなさまにどうか被害が及びませんように。そして、不幸にも被害に合われた方の１日でも早い復旧を心からお祈りいたします。

今回、普段は施設運営支援室という部署に所属しているレンジャーが、社内研修として、西五反田にあります財団事務所にて、様々な業務を体験いたしました。

この探鳥会スタッフ通信の作成もその１つです。

支部のみなさまの活動をじっくりふり返る機会を頂き、その熱心さに改めて頭が下がりました。

また、現場では生き物を相手に、想定外の出来事に振り回される毎日ですが、そんなレンジャー業務に没頭できるのも、縁の下の力持ち的な仕事でがっちり支えてくれる事務所の仲間が居てくれてこそ、と心強く思いました。

今後とも、支部のみなさま、事務所の仲間たちと協力して、より良い活動ができればと思います。

（施設運営支援室／菅野良一）

日本野鳥の会
探鳥会スタッフ通信　第64号
◆発行
（公財）日本野鳥の会　2018年7月13日
◆担当
普及室　普及教育グループ
〒141-0031
東京都品川区西五反田3-9-23丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：tancho-staff@wbsj.org